

第1回宇治市水道事業経営審議会

宇治市水道事業の現状分析と課題

令和6年12月25日

宇治市上下水道部

目次

1. 水道事業ビジョン・経営戦略とは・・・P.2

2. 水道事業にまつわる社会的課題・・・P.6

3. 本市水道事業の現状・・・P.8

1. 水道事業ビジョン・経営戦略とは

水道事業ビジョンとは

- ◆ 水道事業ビジョンは、50年、100年先の将来を見据えた水道事業の理想像を明らかにする計画です。
- ◆ ただし、目標管理としては10年後までの目標を示すものとされています。
- ◆ 宇治市水道事業の基本理念
「安全な水道水の確実かつ持続的な供給」
- ◆ 基本方針
 - 1．安全で安心できる水道
 - 2．強靱で災害に強くたくましい水道
 - 3．将来にわたって持続可能な水道

経営戦略とは

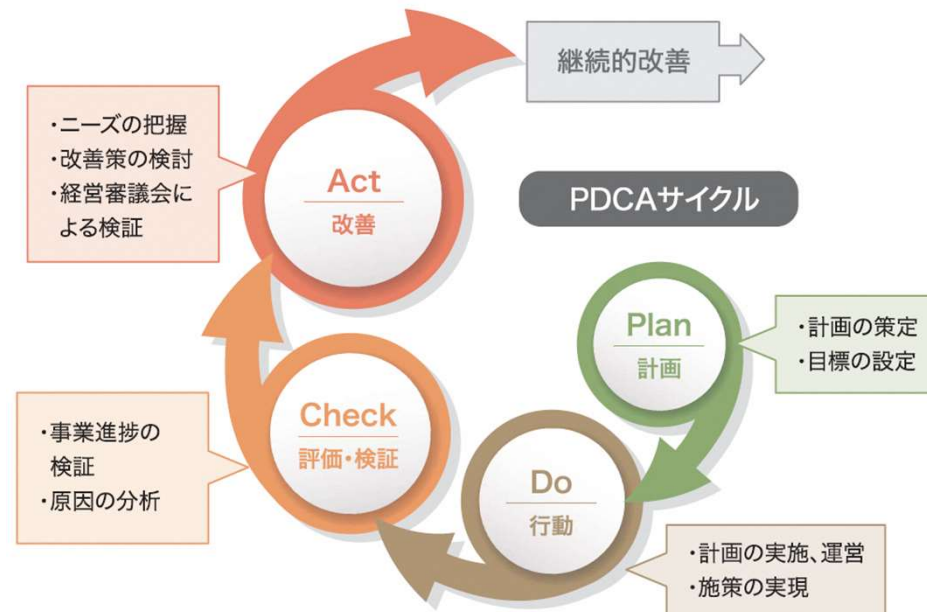
- ◆ 経営戦略は、公営企業を取り巻く厳しい経営環境における中長期経営計画であり、投資試算と財源試算が均衡した収支計画の策定と経営改善の取組を計画することで、水道事業の安定的経営の実現を図るものです。
- ◆ 本市においては、経営見通しを予測しながら持続的で健全な事業経営を行う指針として、令和2年度(令和3年3月)に「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」を策定しました。



水道事業ビジョン・経営戦略策定及び改定の趣旨

計画策定後のフォローアップ

- ◆ 本市の水道事業は、「宇治市水道事業ビジョン・経営戦略」の計画に沿って進めますが、計画の効果的で着実な実施のために、毎年度その計画の進捗状況を管理し、計画と実績の比較分析を行います。
- ◆ また、本計画について、5年ごとに見直すとともに、フォローアップを行っていくため、計画策定の5年後である令和7年度の改定を目指して、本審議会を設けました。
- ◆ 今回の改定に際しては、近年の物価上昇などの社会情勢変化の影響や投資事業等の進捗状況を反映し、水道事業の持続可能性の再検証を行います。



2. 水道事業にまつわる社会的課題

水道事業における社会的課題

- ◆ 人口減少や節水意識・機器の広まり等による水需要の減少
 - ≫ 収益の柱である使用料収益の減少
- ◆ 浄水場、水道管などの老朽化が進んでおり、その対策が必要
 - ≫ 浄水場、水道管などの更新に多額の資金が必要
- ◆ 南海トラフ地震や宇治市域周辺の活断層による直下型地震への備えが必要
 - ≫ 耐震化等に多額の資金が必要

本市の水道事業ビジョンの基本理念である「安全な水道水の確実かつ持続的な供給」を実現するためには、経営の安定化と施設の更新・耐震化が不可欠。

3. 本市水道事業の現状

宇治市水道事業の概況

給水状況（令和5年度）

計画給水人口	181,000人	現在給水人口	179,362人
--------	----------	--------	----------

施設状況（令和5年度）

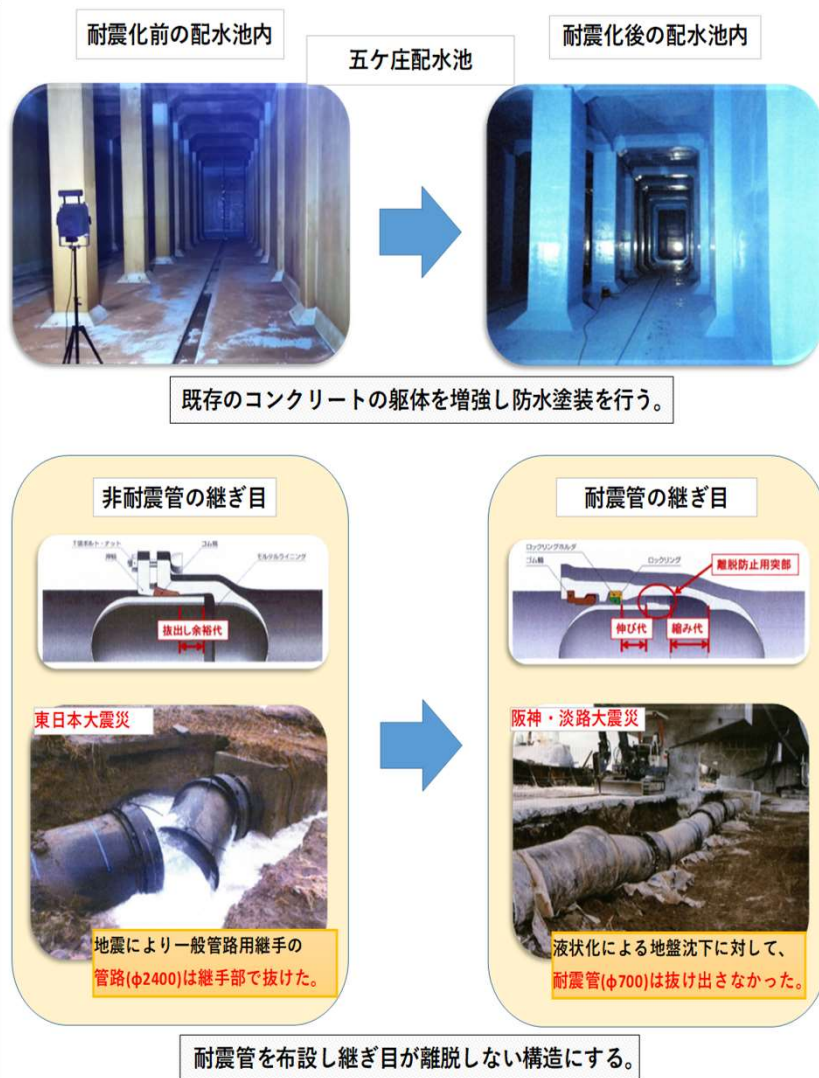
水源	自己水（地下水・伏流水）、府営水 ※概ね自己水30%・府営水70%の割合		
施設数	浄水場4か所、配水池・調整池24か所、ポンプ場23か所		
管路延長	導水管約1km、送水管約25km、配水管約683km		
1日最大配水量	59,888m ³	1日平均配水量	53,923m ³

宇治市水道事業ビジョン・経営戦略 事業実施計画の主な取組状況1

- ◆ 新たに広野町浄水場を整備し、老朽化した神明、奥広野浄水場の統廃合を行いました。
- ◆ 耐震化が図られている琵琶及び折居台配水池を結ぶ送水管の耐震化が完了しました。
- ◆ 耐震化が図られている宇治浄水場において、老朽化した電気、機械設備等の更新、急速ろ過池の築造を行っています。
- ◆ 川東地区最大の五ヶ庄配水池の耐震化工事を令和4年度より進めています。



宇治市水道事業ビジョン・経営戦略 事業実施計画の主な取組状況2



浄水場の耐震化率

項目 (実績年度)	宇治市 (令和5年度末)	全国 (令和4年度末)	京都府 (令和4年度末)
浄水場の耐震化率	82.1 %	43.4 %	73.0 %

配水池の耐震化率

項目 (実績年度)	宇治市 (令和5年度末)	全国 (令和4年度末)	京都府 (令和4年度末)
配水池の耐震化率	39.8 %	63.5 %	60.5 %

基幹管路の耐震適合率

項目 (実績年度)	宇治市 (令和5年度末)	全国 (令和4年度末)	京都府 (令和4年度末)
基幹管路の耐震適合率	30.2 %	42.3 %	41.1 %

基幹管路とは、導水管、送水管、配水本管を指す。

※配水支管の耐震適合率【宇治市(令和5年度末)】: 30.9%

公営企業会計のしくみ1

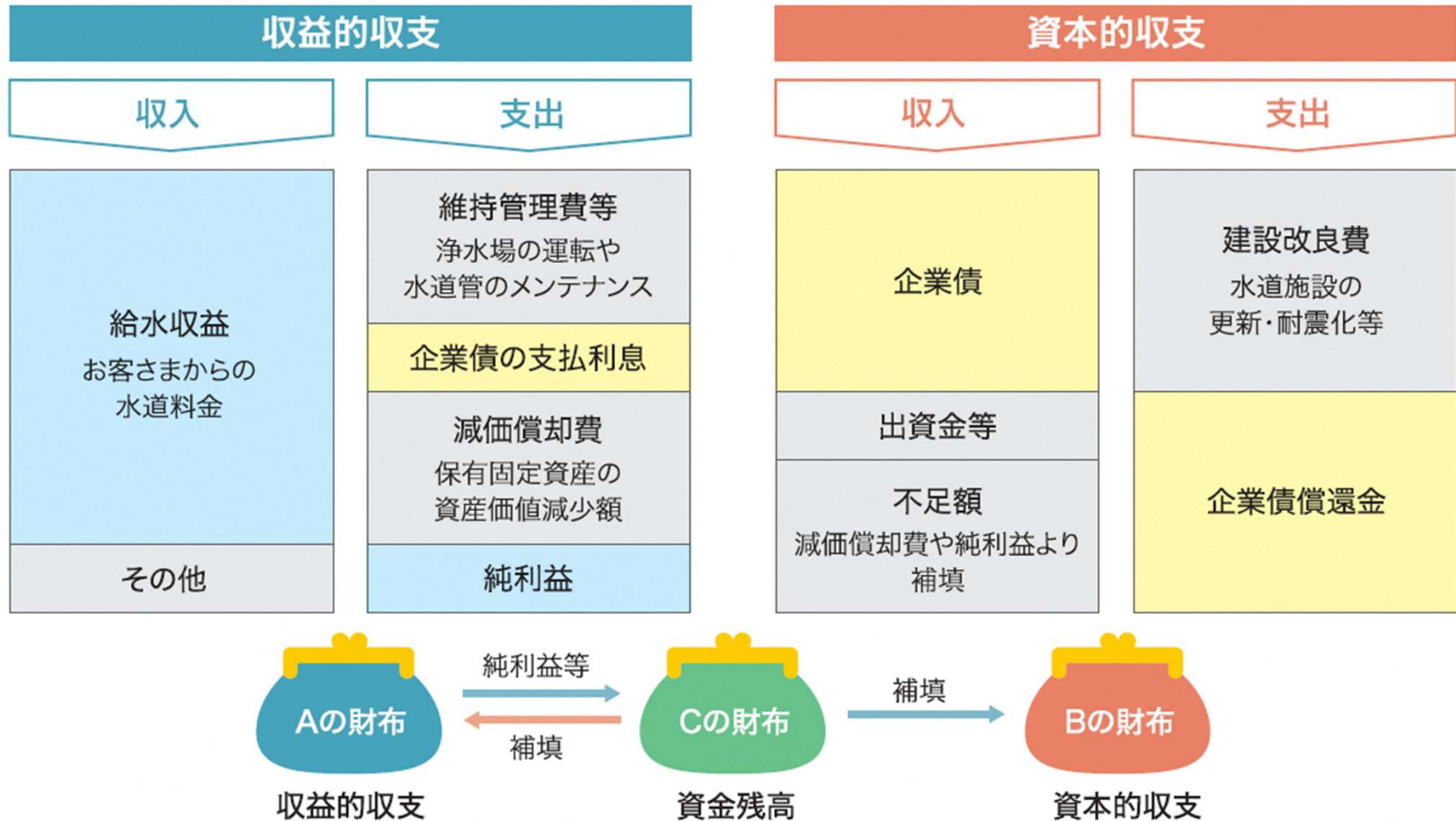
- ◆ 水道事業は市の一般会計とは異なって「公営企業会計」によって運営されています。
- ◆ 公営企業会計は、地方公営企業法によって、独立採算が求められ、そのために必要な経費は利用者に支払っていただく水道料金により賄うという受益者負担が原則とされています。

原則	一般会計	企業会計(水道事業)
財源の負担	税による負担が主(一部の行政サービスは受益者負担)	受益者負担(水道料金)による独立採算

公営企業会計のしくみ2

水道事業会計のしくみ

収益的収支の純利益および減価償却費など現金支出を伴わない経費に対応する資金（資金残高）から資本的収支の不足額を補填するしくみです。



本市水道事業の経営状況1(収益的収支)

- ◆ 令和4年10月使用分より水道料金を改定(14.4%の値上げ)したことで、令和5年度の給水収益は改定前と比較し増加したものの、水需要の減少により、今後ゆるやかに給水収益が減少していく見込みです。
- ◆ 支出については、原油や物価の高騰等により増加したことから、令和5年度の収益的収支は9千9百万円の赤字になりました。

【収益的収支】		(百万円)(税抜)		
項目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
		決算	決算	決算
収益的収入		3,632	3,633	3,867
	給水収益	2,906	2,617	3,064
	長期前受金戻入	300	293	288
	その他収入	426	723	515
収益的支出		3,753	3,889	3,966
	職員給与費	449	443	448
	受水費	1,539	1,650	1,636
	減価償却費等	880	918	963
	支払利息	76	73	82
	その他費用	809	805	837
当年度純損益		△ 121	△ 256	△ 99

本市水道事業の経営状況2(資本的収支)

- ◆ 老朽化が進む水道施設の更新・耐震化を着実に進めるため、資本的支出は大きな金額となりますが、国庫補助金を活用するとともに企業債を借り入れ、工事等を行っています。

【資本的収支】		(百万円)(税込)		
項目		令和3年度	令和4年度	令和5年度
		決算	決算	決算
資本的収入		1,647	1,783	1,937
企業債		1,168	1,547	1,494
出資金		276	155	248
国(府)補助金		0	5	36
その他収入		203	76	159
資本的支出		2,418	2,662	2,699
建設改良費		1,971	2,107	2,291
企業債償還金		447	455	408
投資		0	100	0
収支過不足		△ 771	△ 879	△ 762

本市水道事業の経営状況3(資金残高、企業債残高)

- ◆ 収益的収支の不足額については、利益剰余金で補填しています。
- ◆ 資本的収支の不足額については、損益勘定留保資金等で補填しています。
- ◆ 企業債残高については、水道施設の更新・耐震化事業の実施に伴い年々増加しており、企業債の償還額の増加による将来における収支の悪化が懸念されます。

【資金残高および企業債残高】

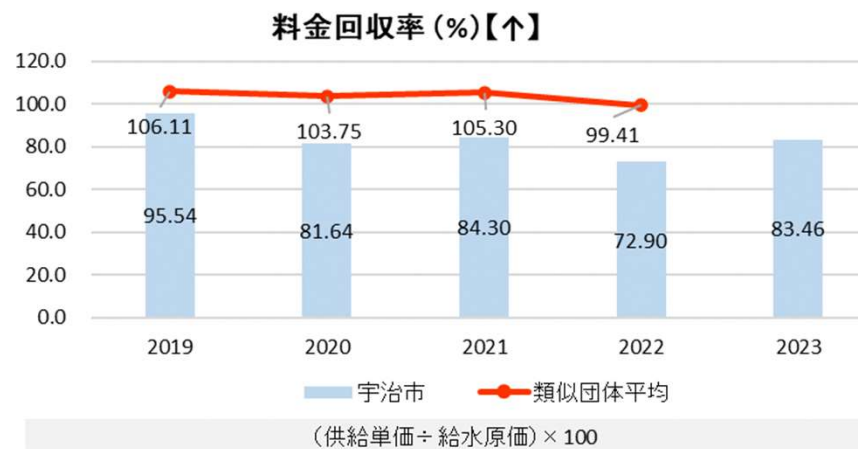
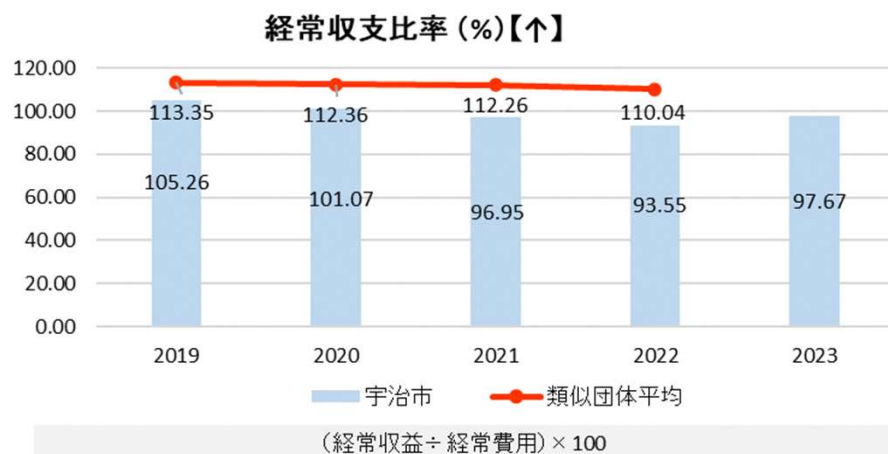
(百万円)

項目	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	決算	決算	決算
資金残高(内部留保資金)	1,692	1,358	1,356
利益剰余金	1,030	774	675
損益勘定留保資金	309	226	317
退職引当金	353	358	364
企業債残高	8,302	9,394	10,480

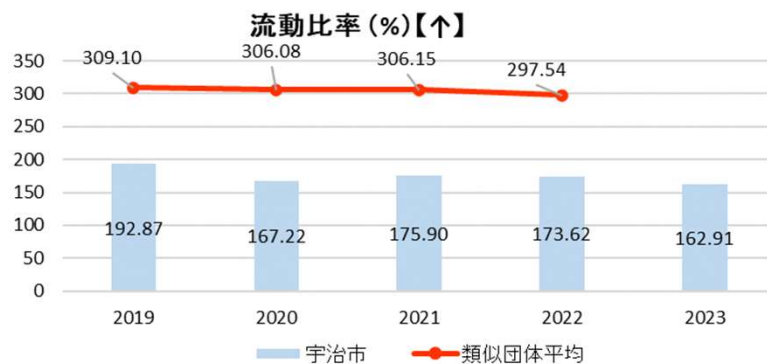
財政に関する経営指標分析1

【特に改善が必要と考えられる指標】 経常収支比率、料金回収率

- ◆ 本市は経常収支比率及び料金回収率が100%を下回っています。
- ◆ 特に、給水原価が料金収入で賄えているかを示す料金回収率については、近年、国庫補助金の獲得においても重要視されており、改善に向けた取組が必要です。



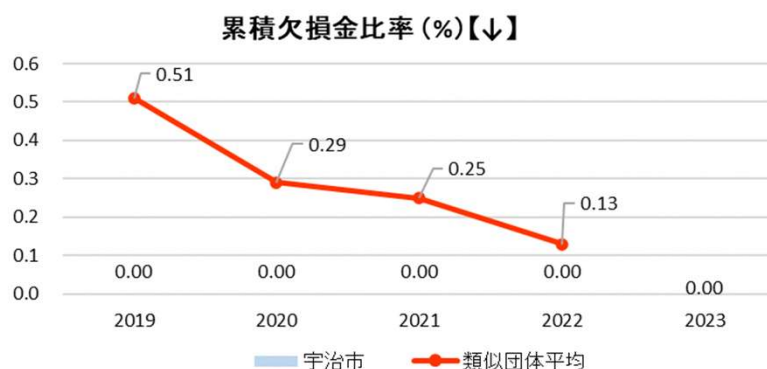
財政に関する経営指標分析2



$(\text{流動資産} \div \text{流動負債}) \times 100$



$(\text{企業債現在高合計} \div \text{給水収益}) \times 100$



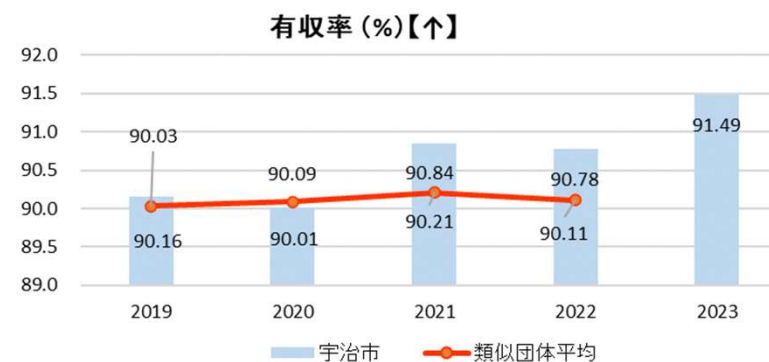
$(\text{当年度末未処理欠損金} \div (\text{営業収益} - \text{受託工事収益})) \times 100$



$(\text{経常費用} - (\text{受託工事費} + \text{材料及び不用品売却原価} + \text{附带事業費}) - \text{長期前受金戻入}) \div \text{年間総有収水量}$



$(\text{一日平均配水量} \div \text{一日配水能力}) \times 100$

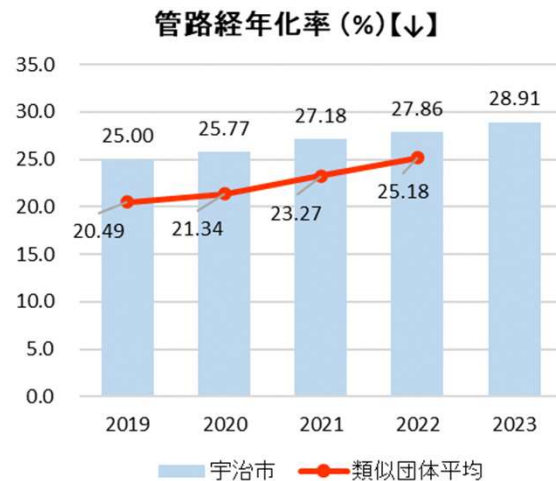


$(\text{年間総有収水量} \div \text{年間総配水量}) \times 100$

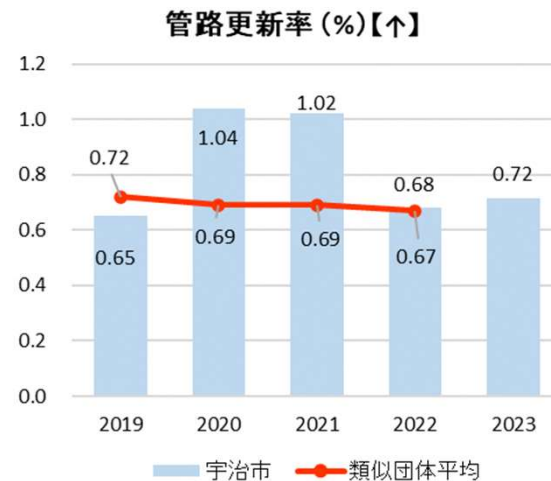
投資に関する経営指標分析

【特に改善が必要と考えられる指標】 管路経年化率

- ◆ 管路経年化率は、全国平均値及び類似団体平均値よりも高く、施設の更新・耐震化工事の早急な実施が必要です。
- ◆ 管路更新率は、全国平均値及び類似団体平均値と同程度（1%未満）で、全ての管路の更新には長期間を要します。
- ◆ 今後も老朽化対策に加えて、耐震化を実施するための財源確保に努める必要があります。



$(\text{法定耐用年数を経過した管路延長} \div \text{管路延長}) \times 100$



$(\text{当該年度に更新した管路延長} \div \text{管路延長}) \times 100$



$(\text{有形固定資産減価償却累計額} \div \text{有形固定資産のうち償却対象資産の帳簿原価}) \times 100$

本市水道事業の現状と課題

項目	現状と課題
経営環境	◆ 人口・水需要の減少により、料金収入は減少傾向 （今後も同様の見通し）
財政の状況	◆ 経常収支比率が100%未満 ◆ 料金回収率が100%未満 ◆ 企業債の残高が大きい
水道施設の状況	◆ 施設や管路の老朽化が進行 ◆ 災害に備えた耐震化が必要